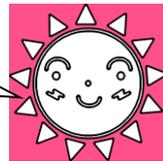


浜っ子

いつも笑顔で
元気です！



2017年4月27日(木)

No.2

土佐清水市立中浜小学校 文責 坂本恭美子

ぐんぐん伸びる！



目指す学校の姿は

○明るい学校 ○学び合う学校 ○地域に根ざす学校 です。

朝から元気な歌声が響き、一人一人の子どもが志を持ち、自分らしさを大いに発揮し、「なりたい自分になる（自己実現）」学校にしていきたいと思えます。

今朝も全校児童の歌声から始まりました。1年生の天花さんも、1年生なのに入学式の次の日から6時間授業で勉強しています。放課後も、お姉さんを待って集団下校をするために、図書室でお勉強や本を読んでいます。放課後の時間は、2人の地域支援員さんが交互に見守って下さっています。（高橋穂野夏支援員：月曜日・金曜日／小橋支援員：火曜日）

中浜小学校12人の子どもを育てる指導・支援体制を整えていきます。



岡林先生の伴奏に合わせて、朝一番に、みんなで歌を歌います。校舎中に12人の元気な歌声が響き渡ります！



歌が終わったら、1時間目の国語の本読みからスタート。
教科書がスラスラつまらず読めることを目指しています。

教科担任制 複式授業

今年度も教科担任制で授業に取り組みます。

教科担任制の良さは ①教師の専門性がより発揮できる
②全教職員で児童を指導・支援する体制が整う ③時間に無駄がない（時間を守る）③中学校へのスムーズな移行 等です。

昨年度から実施していますが、当初は複雑な時間割で教員も戸惑っていました。しかし、教職員一人一人が職業意識を高くもち実行してきたことで、小規模校の特性を生かした取り組みができたと思えます。

さらに今年度も、不易流行を基本理念に学校経営・教科経営を実行していきます。

また、複式の授業形態も子どもを伸ばす要素がたくさんあります。課題に対してまずは一人で考える「一人学び」友だちと一緒に考えを練り合う「とも学び」です。教師の指示待ちで勉強するのではなく、自分たちで問題を解決したり発見したりする授業が複式の真骨頂ともいえます。これから学校教育の中心となる「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」は複式の授業で最も大切にされた教育活動ともいえます。

12人の子どもたちが共に学び合う姿をぜひ見に来て下さい！！



とも学び

豊かに学ぶ



野菜作りアドバイザー宮地さんにお世話になりながら、学級園で野菜を育てています。去年は、ダイコン、ほうれん草、お芋を、4月のはじめには、タマネギも収穫しました。先日、トウモロコシの苗を植えました。夏が楽しみです。



収穫したタマネギをさっそく5・6年生がスケッチしました。よく見て描けています。



やさしく教え愛



合同音楽

音楽、体育、学級会、総合的な学習の時間等、全学年が合同で学習する時間も設定しています。異学年で学ぶ良さが見られます。

「読む・書く」を全教育活動で

「本博士になろう!」をスローガンに読書活動に取り組んでいます。昨年度、チョモランマまで登頂(チョモランマの標高8848m=年間に読んだページ数)できた人が何人もいました。今年も、チョモランマ登頂を目指します。そこで昨年気になったのが、『読んだ本の種類』です。図書室にある本はどの本もおすすめの本なのですが、どうも読んだ本の種類が「マンガ本(歴史や伝記がマンガで描かれた本)」に集中していました。今年は、物語や説明文などの「文字だけで表現されている本」を中心に読むようすすめています。本の種類はシールの色で分別する等、図書委員の活動にも目が離せません。



去年は高知新聞子ども記者便り「読もっか」に15人全員の記事が掲載され「個性がキラリ賞」をいただきました。今年の目標は「目指せ掲載60号」です。かなりハードルが高いですが、頑張ってくれることでしょう。



物語本はオレンジのシールです。

今日もみんなで学校の石段を元気に登って登校。